吉田川中流部遊水地
管理用通路（案）に関する説明会

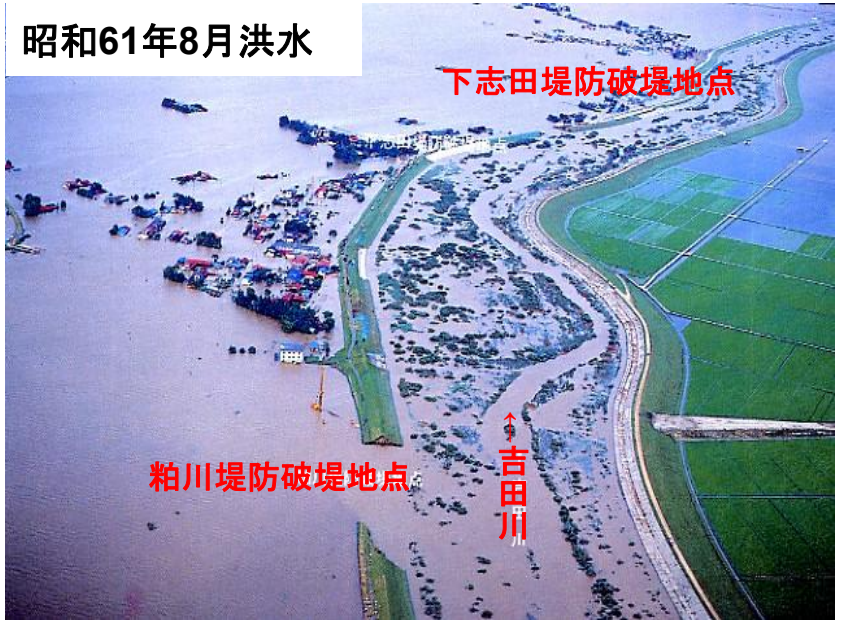
令和8年10月14日
東北地方整備局　北上川下流河川事務所

鳴瀬川・吉田川流域の主な洪水

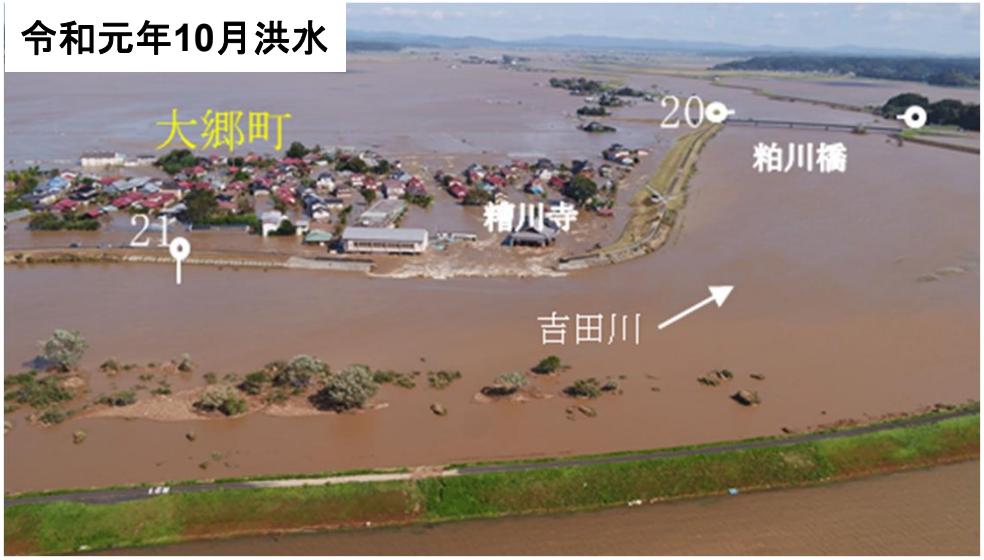
○ これまでも多くの洪水に悩まされ、近年でも昭和61年8月洪水、平成27年9月関東・東北豪雨、令和元年東日本台風（台風第19号）などで甚大な被害が生じている。

洪水年月	流域平均2日雨量	被害状況 ※内水外水による被害戸数の計
昭和22年9月（1947年）	254mm	床上浸水850戸、床下浸水650戸
昭和23年9月（1948年）	334mm	床上浸水1001戸、床下浸水925戸
昭和25年8月（1950年）	232mm	床上浸水660戸、床下浸水334戸
昭和61年8月（1986年）	289mm	床上浸水1123戸、床下浸水608戸
平成14年7月（2002年）	211mm	床上浸水3戸、床下浸水75戸
平成23年9月（2011年）	280mm	床上浸水4戸、床下浸水5戸
平成27年9月（2015年）	324mm	床上浸水134戸、床下浸水171戸
令和元年10月（2019年）	331mm	床上浸水492戸、床下浸水186戸

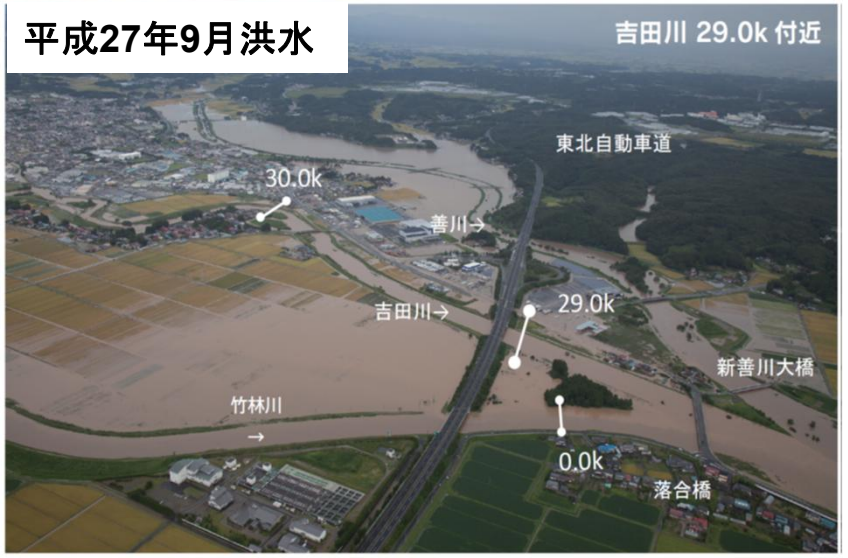
昭和61年8月洪水



令和元年10月洪水



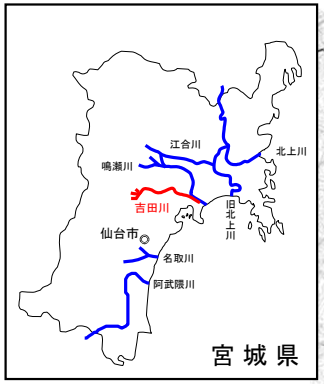
平成27年9月洪水

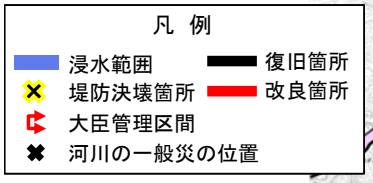


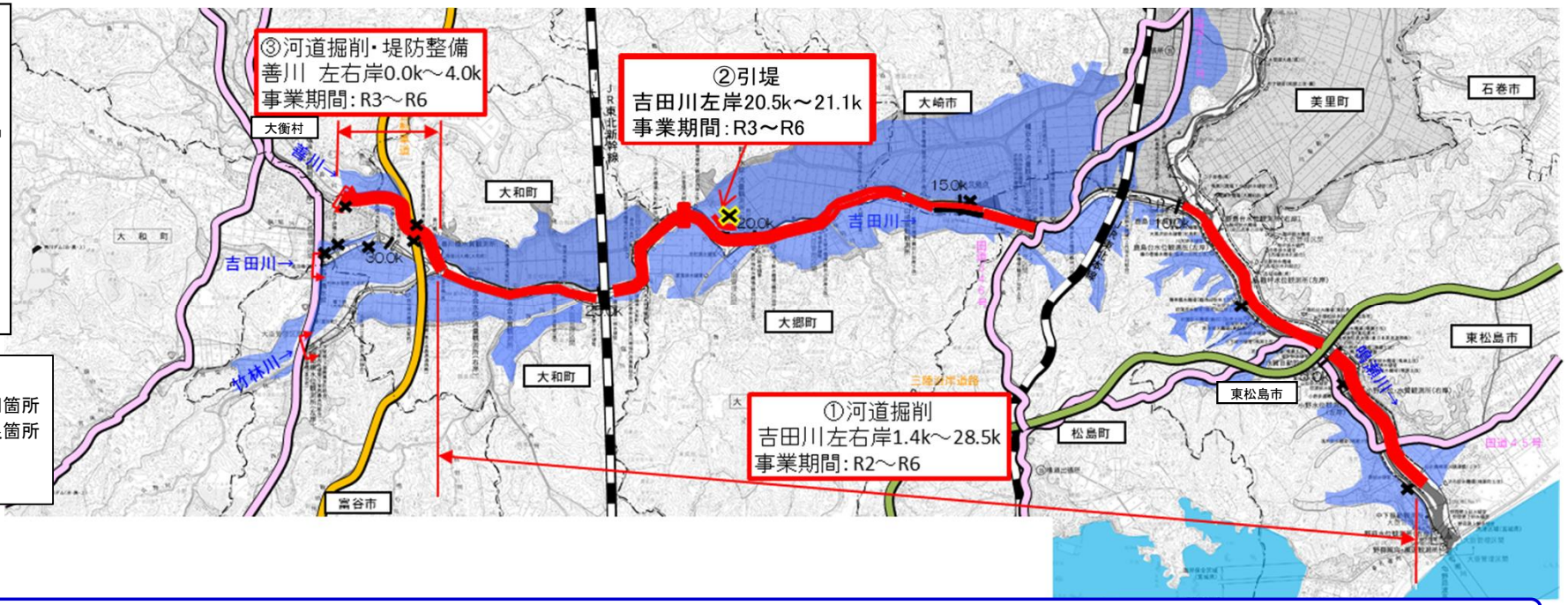
令和元年東日本台風の対応①

【事業主体】
事業主体：東北地方整備局
河川名　：一級河川鳴瀬川水系吉田川
事業箇所：宮城県東松島市、松島町、大崎市、大郷町、大和町、大衡村
事業延長：31.1km
事業期間：令和元年度～令和7年度（当初計画と同じ）
事業費　：約271億円
事業概要：河道掘削、堤防整備　等

○令和元年台風第19号と同規模の洪水時に対し、堤防から溢れさせない対策として、河道掘削及び堤防整備等を実施。
・決壊による被害が生じた1地区において流下能力向上のため、堤防（引堤）整備を実施
・HWL超過した水位を下げる対策として、河道掘削を実施



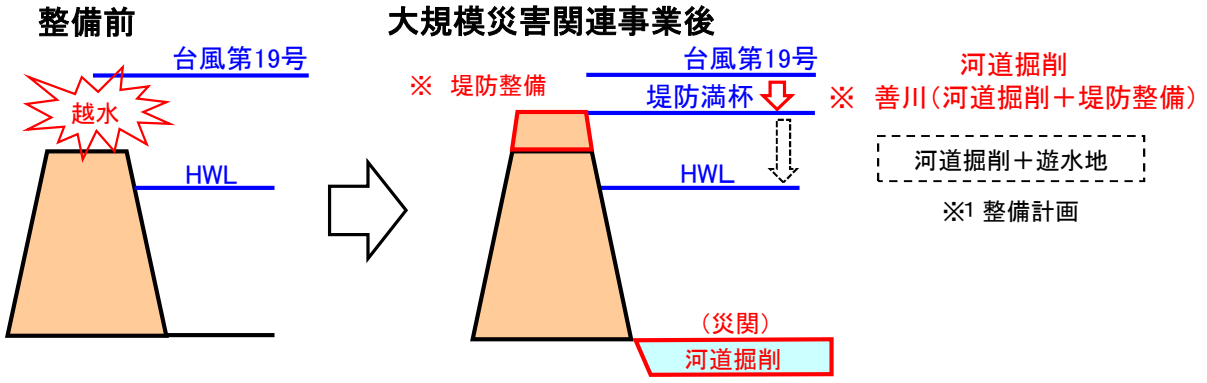




□大規模災害関連事業の整備目標

令和元年台風第19号と同規模の洪水時に対し
堤防から溢れさせない対策
として河道掘削及び堤防整備(善川)を行う。

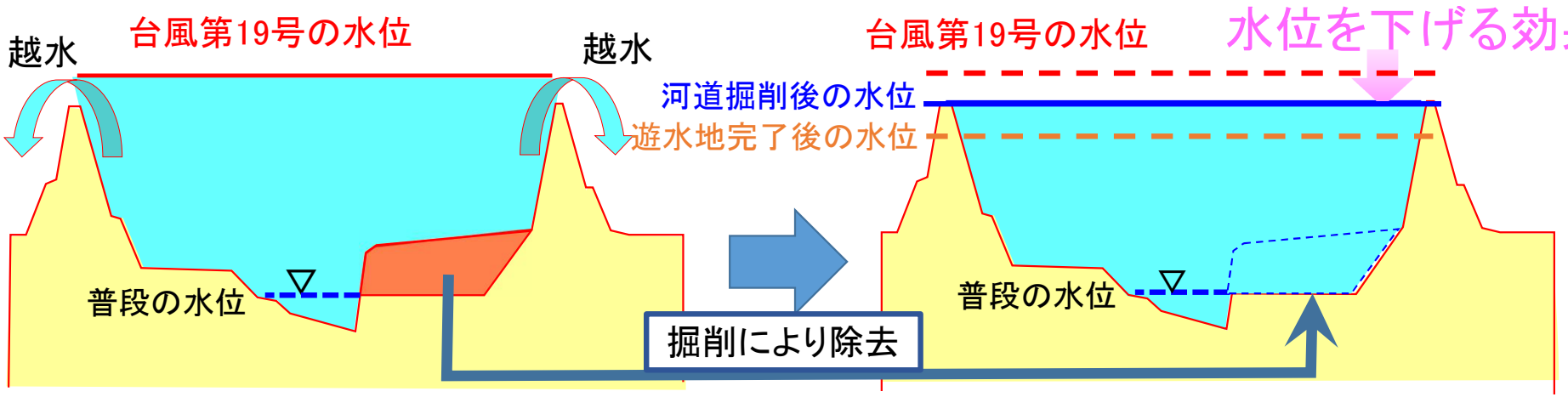
※　HWL以下への流下対策は整備計画
（河道掘削＋遊水地整備）



令和元年東日本台風の対応②

令和元年東日本台風に伴う洪水で吉田川では33箇所で越水、溢水が発生しましたが、川の中に堆積した土砂を除去し、水を流れやすくすることで、令和元年東日本台風と同等の雨が降った場合でも、堤防満杯で洪水を流すことが可能となりました。

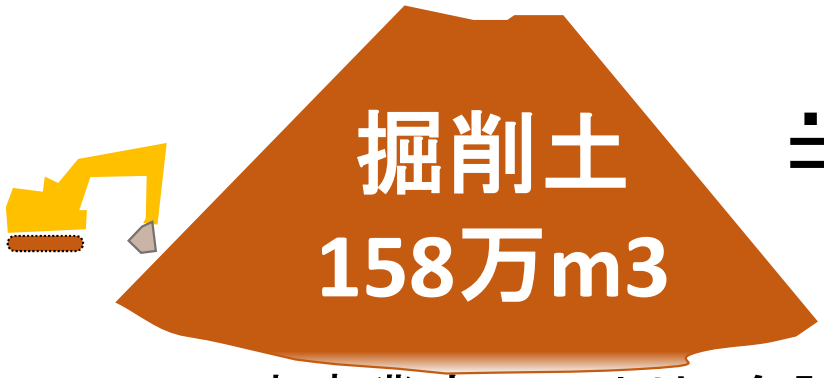
約90cm（粕川地点）



吉田川横断面　河道掘削工事イメージ図

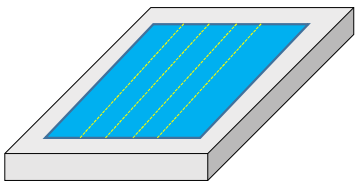
※水位低減効果については、上流遊水地の調節効果を含んでいる

工事で掘削した土砂の量の合計



≒

小学校のプール



× 約3,000杯分

本事業完了により、合計で約158万㎥の土砂を掘削しました。

吉田川中流部遊水地計画について

1. 遊水地計画の背景

○令和元年東日本台風の治水対策として、河道掘削等を実施してきたところではあるが、さらに地域の安全度を向上させる、新たな遊水地を計画。

2. 遊水地の計画概要

※今後の検討状況により変更となる可能性があります。

【施設の概要】

・候補地面積　：約160ha
・最大貯水容量：約700万m^3

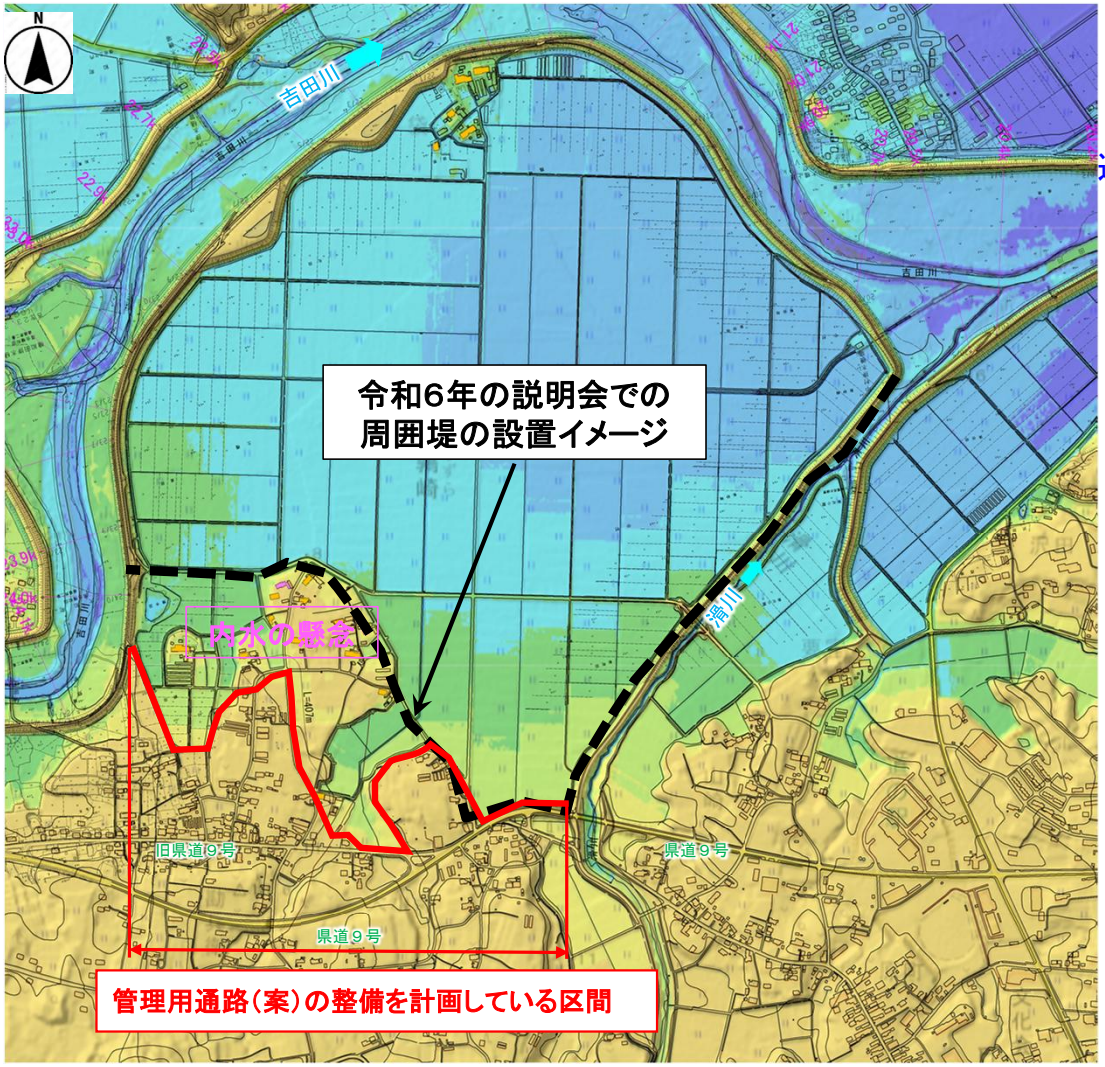
・補償方式：河川施設敷地（堤防など）＝用地取得
湛水地内＝地役権設定※に伴う補償
建物・工作物など＝移転補償

※地役権設定の目的
・浸水、冠水の認容
・遊水地機能の保全の妨げとなる工作物の設置等の禁止



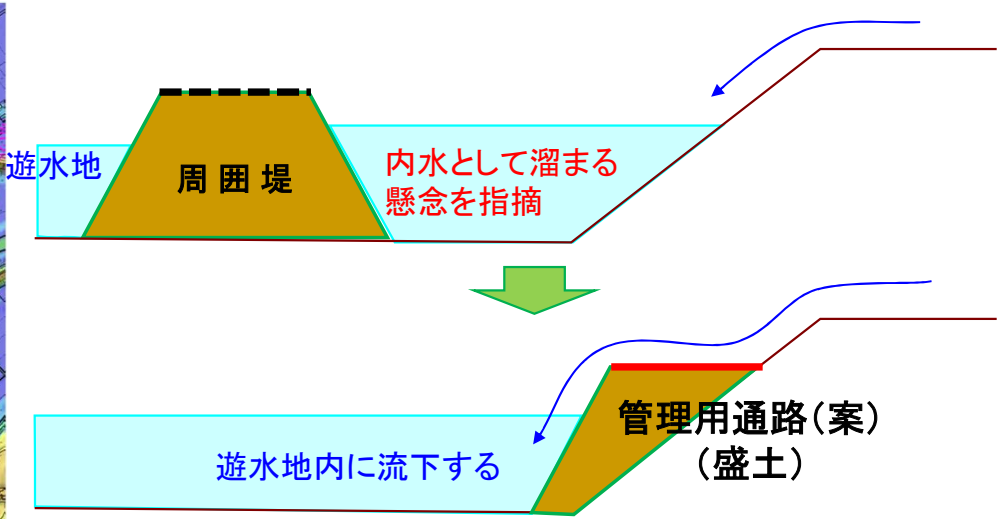
吉田川中流部遊水地　管理用通路(案)の計画①

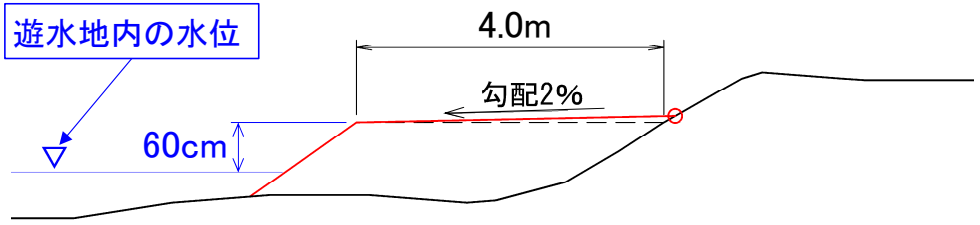
■ 令和６年の説明会では、周囲堤（案） :▬▬ をお示ししましたが、内水による浸水被害が懸念されるご意見をいただいたことから、内水被害を軽減させる案として、管理用通路（案） :▬▬ の検討を行いました。



＜遊水地全体と周囲堤・管理用通路（案）の設置範囲＞

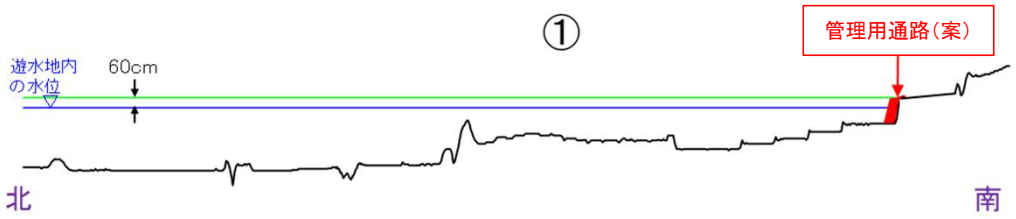
＜『周囲堤』と『管理用通路』の比較イメージ＞



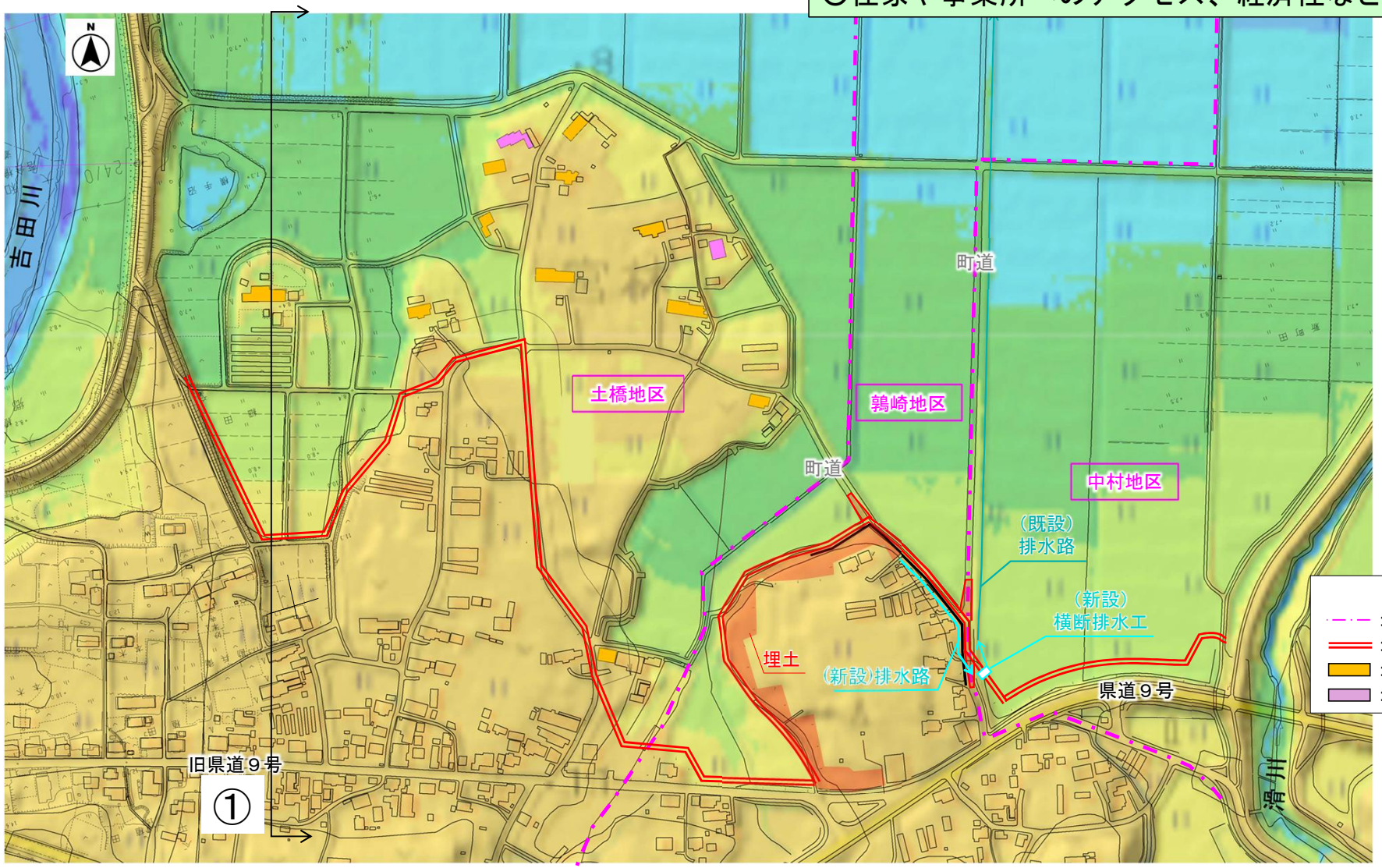


＜管理用通路（案）の断面＞

吉田川中流部遊水地　管理用通路(案)の計画②



《管理用通路（案）のルート選定における基本的な考え方》
〇設置高は、遊水地に溜まる計画上の水位から60cmとします。
〇県道９号及び旧県道９号には、かからないルートとします。
〇既存の町道・農道等のルートを基本的に利用します。
〇窪地が生じる箇所には埋め土や排水路を設置します。
〇住家や事業所へのアクセス、経済性などを考慮します。



※(　)内の棟数は、今後の調査によって確定します。

＜管理用通路（案）平面図＞

遊水地ができるまで

1 遊水地の計画

洪水や高潮などの状況を調査し、地域に必要な堤防について計画します。



2 計画の説明（土地立入了解）

計画が決まると関係者に説明を行い協力を求めます。



3 測量・地質調査

堤防をつくるために必要な資料の収集・調査・図面の作成を行います。



4 遊水地の設計

現時点

測量図面や収集した資料をもとに堤防や水門等の設計を行います。



5 設計の説明

現時点

関係する方に堤防の設計について説明を行い、設計について了解をいただきます。



6 用地巾杭設置

設計に基づき堤防工事に必要な用地の範囲を示す杭を打設します。



7 用地の調査

堤防工事に必要な土地等の調査を行います。
その際、隣接地との境界確認のため皆様に立ち会いをお願いします。



8 補償内容の説明・契約

地権者の皆様に補償等について説明を行い、了解いただいた方には契約締結をお願いします。
事業用地を引き渡しいただいた後、補償金の支払いを行います。



9 工事の説明

工事の方法、期間などの説明を行います。



10 工事

設計に基づき堤防や水門をつくります。



11 遊水地の完成

計画から工事までいろいろな方の協力によって堤防ができあがります。



以降、参考資料

【参考】吉田川中流部遊水地の各種諸元について

2. 遊水地の計画概要（管理用通路案）

【越流堤】
・形式：自然越流方式※1
・延長：約530m
・高さ：現況堤防から約3m下げる

【管理用通路（案）】
・延長：約1850m
・高さ：地内HWL＋60cm※2

【排水門】
・幅　：約15.2m
・高さ：約6.2m

※1：川の水位が一定の高さを超えると、自然に遊水地へ水が流れ込む方式
※2：洪水時の想定最高水位
※今後の検討状況により変更となる可能性があります。



【参考】遊水地について

整備後のイメージ一例（平常時）

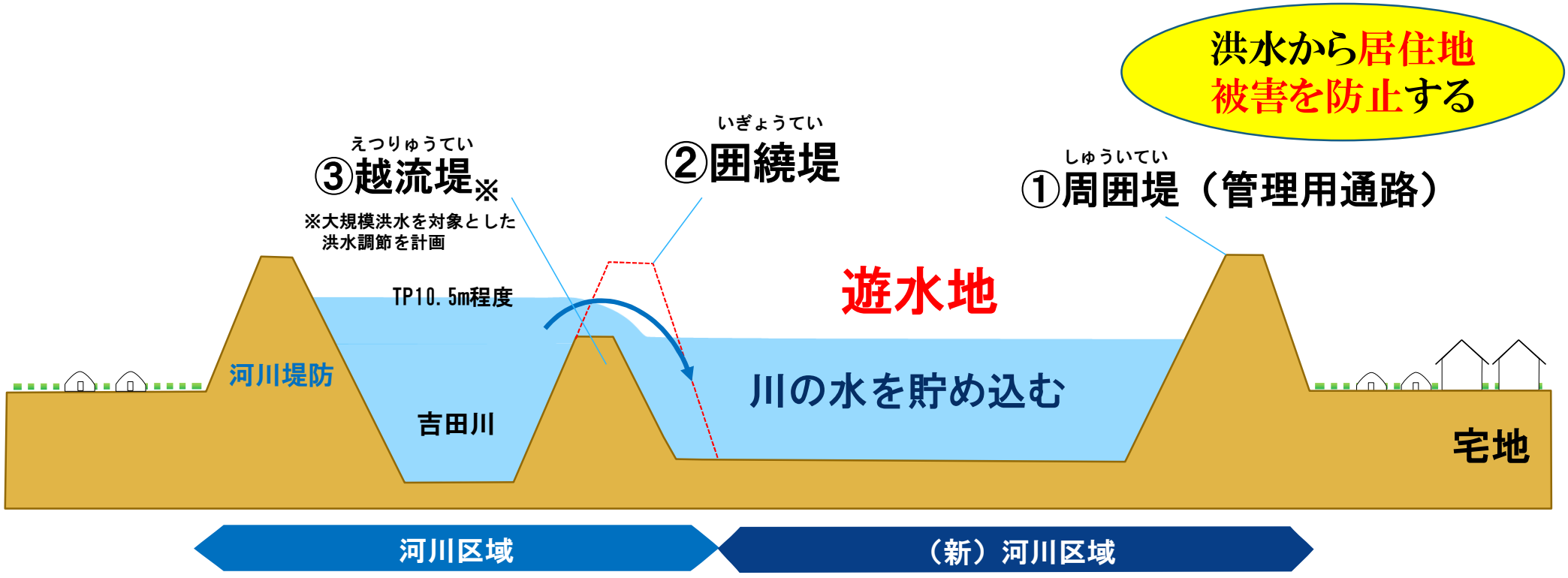


【参考】遊水地のはたらき

遊水地は、大雨が降った時に川から水があふれて浸水範囲が広がらないよう、
河川に沿った地域で一時的に水を貯め込み、地先と下流側の水位を下げる
機能を持っています。

遊水地のしくみ

①周囲堤：遊水地の周囲を囲む堤防
②囲繞堤：遊水地と河川を仕切る堤防
③越流堤：②のうち河川の水を遊水地に流す区間



遊水地は河川区域に変わります

【参考】越流堤のイメージ

